

○ 6月24日(月)

## 「非行防止教室」視察(宇治市立北槇島小学校)



### ○ 安藤 委員

宇治市立北槇島小学校で、5年生の「非行防止教室」を拝見いたしました。

「1000円拾いました。さて、どうしますか？」

「友達と喧嘩して殴られました。さて、どうしますか？」

万引きや、いじめをテーマにし、子どもたちの身近な出来事を重ね合わせた絵カードを活用した非行防止教室は、子どもたちの関心をしっかりと引きつけていたように感じました。ひとつひとつ事例を紹介しながら、この時「自分ならどうするか」、「自分がしたことが罪になるのか」、また、立場を置き換えて「自分がされたら困るかどうか」など、スクールサポーターと対話しながら思ったことや考えたことを出し合い、その罪の重さや、軽い気持ちで行動してはいけないことをしっかりと学んでいたように思います。

スクールサポーターのやさしい口調はとても親しみやすく好感が持てましたし、現役時代に補導したときの話をするなどして、発達段階に応じた話し方や工夫が各所に見られました。子どもたちは、初めて聞く言葉（法律や刑法、罰則など）に興味を示したり、罰金の金額に驚いたり、クラス単位での取組む非行防止教室は活気があって楽しみながらスクールサポーターの話に耳を傾けていたのがとても印象的でした。悪いことかどうかを判断しやめる行動力を持つこと、そして、心にブレーキをかけられるようになって欲しいと願っています。

今後、さらにここで学んだことを深めていくには、保護者の意識も大切になってくると思います。拝見した学年はまだ、携帯電話やスマートフォンの所持率が低いようでしたので、そうした犯罪に巻き込まれないための正しい知識や、使い方を学ぶ機会として、保護者は勿論、地域の大人も参加できるような取り組みとして発展させていって欲しいと願っています。

先日、非行防止フォーラムを拝見した際に、意外と大人の規範意識が低かったり、青少年の犯罪率の高さに驚くなど、現状をあまり知らない保護者が多いように感じました。身近な大人が善悪の判断をしっかりと持ち、正しい方向に導いていけるよう子どもたちの身近なお手本でいたいと思っています。